



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2013年8月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



酷暑と集中豪雨、相変わらず異常な天候がつづいています。災害の被害にあわれた地域の方々には、心よりお見舞い申し上げます。「子森通信」今月号は、OMEP世界大会のレポートをお送りします。

(目次)

1. OMEP「世界幼児教育機構」上海世界大会活動発表レポート
2. 事務局からのお知らせ
 - どんぐり博士の育苗講座 2013～基本編⑧～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟

(順不同) (社)国土緑化推進機構

全国森林インストラクター会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

(社)大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

(社)日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. OMEP「世界幼児教育機構」上海世界大会活動発表レポート

2013年7月11日から13日の3日間、中国の上海でOMEP世界会議が開催され、子森ネットでは、分科会(セッション)にて「子どもの森づくり運動」及び同運動「東北復興グリーンウェイブ」の取り組みについて発表を行いました。以下、プレゼンター河内インストラクターのレポートです。なお、同レポートは紙面の都合で抄録となっております。レポートの全文、及び発表資料(英文)は、ホームページにてご覧いただけます。

(*写真提供:たかつかさ保育園 藤井先生)

1)レポート① OMEP上海世界大会について

ご存知の方も多いと思いますが、まずはじめにOMEP「世界幼児教育機構」について、OMEP日本委員会のホームページの記載内容を借りて説明します。

●「OMEPは、第2次世界大戦直後、未だ戦火の消えないヨーロッパで、幼児教育にたずさわっている人々が、国境を越えて子ども達のために協力する目的をもって、創設された国際機関で、幼児教育・保育のすべての面に貢献する国際的な非政府(NGO)非営利(NPO)組織です。加盟国は現在では、56か国と成っています。

●MEPの主目的は、「すべての子どもが、家庭や保育・教育機関、そして社会の中で、より良く発達し、幸せになるように、最適条件を用意する」ことで、この目的のために、幼児教育・保育を改善するためのあらゆる努力を支援し、これによって、OMEPは人類の相互理解に貢献し、ひいては世界の平和に寄与するとされています。

今回、上海で開催された世界会議のテーマもこの目的に沿い、Enhancing the Development of Early Childhood Education: “Opportunities and Quality” で直訳すると「幼児教育の機会と質の発展の増進」のような意味になるでしょうか。このテーマにはさらに、10のサブテーマが付され、世界中から参加した幼児教育と保育に関わる方々によって、基調講演・シンポジウム・ワークショップ・分科会での口頭発表・ポスター発表が3日間、多くの会場に分かれ開かれました。



上海会場風景



開会式

どの会場にもアジア、欧米、アフリカと世界中からの参加者があふれ、人種や国を超えた交流と議論が盛んに行われ、緊張感がある中にも和やかな雰囲気が流れ、私にもう少しの度胸と英語力があればもっと充実した世界会議ライフを楽しめたものと、帰って来た今、少々悔しい思いをしています。



世界OMEP総長(President) 基調講演



ポスターセッション会場



参加者交流会場

2)レポート② 分科会発表について

次に、分科会での発表について報告します。今回の会議において、子森ネットは「子どもの森づくり運動と東北復興グリーンウェイブの実践と意義」について発表しました。英語題は以下のようになります。

Planting The Seeds Of Symbiosis In The Hearts Of Young Children

A Children's Forest - The Green Wave For The Recovery Of The Tohoku Region

発表は、内容が会議のテーマ及びサブテーマに沿ったものである必要があります。この発表はサブテーマの中の、Education for Sustainable Development「持続発展教育」(ESD)に関する活動として発表しました。発表形態はパワーポイントを用いた、プレゼンテーション方式で、割り当てられた時間は20分間です。



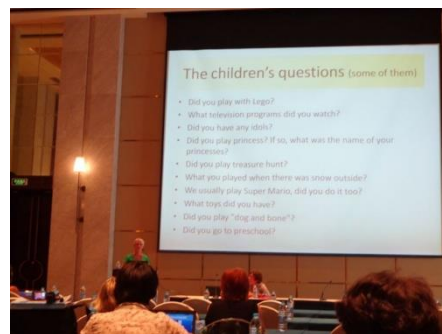
河内インストラクター分科会発表風景

私たちの分科会には子森ネットを含む4つの発表が有り、その中の3番目として発表しました。ちなみに他の発表は、1番目がアメリカの方で、災害から身を守る教育について、2番目が韓国の方で、古い公園の遊具を、子どもたちの発想と絵で再生していく取り組み。4番目がバングラデシュの先生の発表で、国の発展の中で保育や幼児教育が定着していない発展途上国に置いて、試行錯誤で保育に取り組んでいる現状と、さらにバングラディッシュは災害の多い国(水害)で、それにより子どもの命と生活が脅かされる事態にある

ので、**DRR** (Disaster Risk Reduction)「災害危機の低減」の必要性について、強く訴えておられました。

私どもの発表内容を具体的に説明すると、2011年の東日本大震災を受けて、岩手と宮城を中心に取り組み始めた『子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」』(以下「東北復興GW」)の活動について紹介することを目指し発表を計画しました。ただその活動の基礎になっているのは、従前から取り組んでいる「子どもの森づくり運動」ですので、まず我が団体が以前から取り組んでいるこの運動について、その意義と方法について発表し、東日本大震災後この活動が被災地の復興にも寄与できるとの代表の思いから、「東北復興GW」の活動に至った経緯とその詳細について説明しました。加えて、山田町第一保育所阿部所長の震災当日の生々しいレポートと、ドングリ植え付けに参加頂いた園からのお便りをいくつか付け加えて発表としました。

結果、発表会場での日本人の参加者は私以外2名だけという大変アウェイ感が強い中でしたが、発表原稿の仕上げを手伝ってくれた我が英語の先生の、心憎い配慮でいくつか笑いも取りながら、つつがなく発表を終えることができました。原稿作成時にははともかく欧米人に通じる英訳をするのに精一杯でしたが、実際の参加者は、発表者に合わせ、アメリカ、韓国、バングラデシュ、そして中国の方々とその他と大変多様でした。



別会場発表風景

特にバングラデシュの発表者には多くの応援の方がついてきておりましたが、生活や幼児教育の環境が日本と全く異なる、この方々には私の発表する一語一語がどう捉えられたのだろうと疑問がいっぱいです。私の英語力ではそれを確かめるすべも無く疑問のままですが、国際会議で発表すると言うことはここまで想像力をたくましくして原稿を準備する必要があるのだと痛感しました。最後にマレーシアの幼稚園の先生から、英語で「この度の震災は本当に大変でしたね」と言われ本当にうれしく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

なれない国際会議参加で、たいした報告ができず心苦しいですが、OMEP日本委員会事務局の方を始め、多くの方の支えがあって無事役目を終えることができました。有り難うございました。「子森ネット」インストラクター河内和男

2. 事務局からのお知らせ

1) 子どもの森づくり運動「全国大会」開催のご案内

皆様と共に活動を継続してまいりました「子どもの森づくり運動」も、今年で6年目の節目の年を迎えさせていただきました。つきましては、下記の内容で、これまでの活動をふり振り返り、これからのより良き活動を協議させていただく機会を用意させていただきました。自然体験活動や環境学習、さらに園の危機管理をテーマとする研修講座も併催します。ご案内が遅くなりましたが、是非、ご参加いただけますようお願い申し上げます。



1. 日程: 2013年11月28日(木)、29日(金)

2. 会場: 「サンシャインシティ」(東京都豊島区池袋3-1)会議室

* 詳細は、次月号にてご案内申し上げます。最新情報はホームページにてご案内申し上げます。

2) 苗木のお披露目会開催のご提案

子どもたちが育てている苗木の「お披露目会」開催をお奨めします。活動を通じて、子どもたちと共に生命の芽生えを祝い、あらためてみんなで苗木を大切に育てていこうという気持ちを共有してくれます。できれば、保護者の方たちにも参加してもらい、そんな子どもたちの活動風景をご覧いただけると良いですね。是非、事務局宛に活動レポートもお送り下さい。



3) ホームページの新コーナー「事務局日記」を始めました。

ホームページ新コーナーとして、事務局スタッフが活動の中で感じたことのあれやこれやを綴る「事務局日記」を始めました。「日記」でありながら、不定期です。よろしければご覧下さい。ひきつづき、各園の活動情報やレポート、写真も募集しております。森づくり活動に限らず、恒例の行事など、園としての活動風景であればなんでも結構です。お待ち申し上げます。

* 送信先: info@kodomonono-mori.net

* 郵送先: 〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4-3F「子森ネット」



<http://kodomonono-mori.net/nikki>

●どんぐり博士の育苗講座 2013～基本編⑧～

残暑お見舞い申し上げます。また、全国各地の自然災害に対し、心よりお見舞い申し上げます。夏も終わりですが、振り返って、今年の夏はなんと形容したら良いのでしょうか？ 西と東、北と南で大きく天候が異なり、こんなにコロコロと入れ替わった夏は記憶になりません。全国に配布するこの通信に、講座を記すことの難しさを痛感する夏となりました。

* どんぐり博士: 河内和男(森林インストラクター)



地球温暖化の影響も有るのでしょうか、日本の気候は、各季節の平均から大きく離れ、極端な天候が頻発するようになり、さらにその傾向が増幅されているように感じます。ドングリリにかぎらず、植物を育てるのが難しい状況になってきています。このような極端な天候の中で、プランターやポットで植物を育てる際、大切になるのがこの基本編で繰り返し述べている土です。特に夏の時期はその量が大切になります。多い方が、植物にとって極端な天候から受けるダメージを少なくできます。猛暑に対しては、水持ちが良くなるため、葉から水分を蒸散し高温に対処できますし、長雨や低温に対しては、土内部の水分量調節力が大きくなる事と、根が大きく張ることから、植物自身が強くなります。そんなわけで、東北復興グリーンウェイブでは、ポット苗としては大きい15cmのポットを使用しています。充分な量の土に守られ、少しでも多くの苗がこの厳しい夏を乗り切ってくれればと願っています。